

日系兵を激譴する  
陸上部隊總司令官  
香港發電昨日のW.R.A.  
發表に依ると日系人共  
三万五千二百九十九名中  
約三分之二名が歐洲及太平  
洋戰の犠牲となつてゐ  
る旨發表した。

詩和詩歌

本圖示、余は胡和支部に於ける事務仕部長は現云軍籍に於ける家族を有すと、並には全部胡和支部役員は全部胡和支部へ出頭地方支部へ換防料請求式は他の緊急補強に關する文書提出の件一書込書と委取られたりと近々入嘗する者も正恩因所に起きた中精の手續を了すべきである。

軍人家族扶助料

はぢまないと書いてある。此の書物は加井に於ける日本迫害と關つてゐる。宋閩王義振議協會が死に送られたものである。

朗和大美術展  
出品に關する注意

十一時午後一時五時夜七時十九時半であります。此品申込みは木胚正手並に置きど品名を添へてお送り。承られ度く又お品は堅金胚半斤二時十五時及七時十八時近に公会堂へ持きされたりと、彌生西物に付け3名され申込みり時 C A S

正長金リ界口義藏ル  
水島吳津志(10色)中山山  
次郎(3区)濱松軍治(20区)  
秋不量(34区)

(12) **記帳**  
アウトボスト  
廃刊が繼續か  
英字部に人を置む  
外部定住の大波は本心  
英字部にも押し寄せ  
週出所すら二名と採用

朗和往民より転住局長官宛  
請願書研究委員會  
ヒラ川の所よりマイヤ  
'1為長へ提出した請願  
書十五條の寫しを至所  
各事会に送附し奉つた  
か吾朗和としても請願  
書作成委員会と設け加  
比良駅所請願書を基礎  
として研究し而長充通  
株株主に決定本  
は生住研究部算  
追加の左の千名  
締成す。  
各事会 || 横山御  
國次史朗(II)邑成  
鈴邑五味保(一)邑  
弘二(一)邑

躊躇すと事なく國依  
社部長福本江里子氏を  
見山へした。

最後にちひろに付して  
は警笛共めでて全く  
注意を拂ふ。

私住局長官宛  
委員會

本局に付所先にて支拂官は物價統制局に到りレオジンブル下附と交渉してくれた。支拂官が居ない久下には出所者は宣報か手紙で自身駐在局へ寄付すのである。次に短期料金者加場所した場合に一応通納し定住並所成時再び下附さう。

士所したる者等の遺稿  
したる圖籍を除去し殊に  
短期より長期に亘り  
凡て者等に好都合で貰ひ  
若し何等かの理由で不  
所前之が得られなかつ

心淋しく同情の感覚を覺えた。此の隠記者及タインピストとして適当な人物と諸君の子弟の守ひのち誠は知友の間からでも御推薦願ひた。

用然、之では英宗純の廢  
帝も止むを得ない恐慌  
振りである。

(2) 12  
2 13  
49  
21 (93)

四維府上町道場で  
返還者を大歓迎

羅村飯還者は、夙夜十二  
時を守り、立身一モノト  
より而して、六五歳の道  
場で柔道の稽古をすむ  
事を教習する。  
館を造り、以及、アリア  
ムアルバ、ツケナセー  
ル遊場、主徳は柔道に興  
味ある人は一二度を同

宮川一郎語  
アーリーグをデラルリー  
グを運びて、センターワーク  
球アソの歓人氣者はエ  
イセス軍のマネギヤー  
宮川である。

珠  
界

一聖手をやらせれば彼の方に出る者はないだらうが余では若し猿本に一聖を仕して自分は強手に物を言はして遊撲に入たり捕手にならりしておむ。

相手をやれば大抵の  
にテ、はるかの強者たる  
者て大差別をする機  
会があつて滅多にワラ  
イしない。一球毎に投手  
をりードして比所へ投  
げろ。今おは此所近と吉  
ふ様にアビスさすの  
ガソロトルの先ら  
ない投手は投げ難い事  
だらうと四五余り策を  
采り過ぎて若々投手を  
破滅させ終ふがち。

◎日本映画  
既に到着の筈なりし日  
本映画は未だ胡知に兼  
てないが到着次第本紙  
上で発表する。

が、然かもう少く、子供を腕枕に外せざる両親が意外に多いのに驚かされる。此處に少年労働と因する興味深い記事を、八月号でより転載して見やう。

なんだ事に先附がない。眞附いたものは文部省で直ちに全社会を勧奨し就章運動を起した。

少年労働は今日備未因に於ける一大問題である。各業を中途で逃げ出しだ一少年が人生の危機を見ぬ間に一朝の夢と果敢なく消え去つた悲惨事を見よ。此の州法規を無視したやり方には冷血漢の殺人にも等しい。

はす大歓迎する旨を表  
し此後等は又満達雑業  
を教授師を招聘しなき旨  
述べてゐる。  
講習は毎週火木西夜七  
時半より十時迄行ふ。  
多數自人実業家同人薦  
送は非常に体育投注的なら  
の如しく流傳を未だして  
居り殊勝事では技術術  
の一ヒビで正科は孰か  
ハープホーピー船並で  
日本兵を討つて

大西洋上某海面にて！  
眼窓めで見渡せば今朝  
は海面霧蒙を敷いた様  
が実際何が霧嗜しい冒  
険でもやつて見た様  
な衝動にさへ駆られ  
一千四百名の兵士の前で  
芝居をやつたが彼等は  
主に日本兵であつた。打  
てば響く様子じゃアな  
若者揃ひでハンバーが  
一サンドウ。千同様完  
全に呆園的である。

故佐々木勘三郎氏(云島  
縣高田郡丹比村の葬儀  
に當り御同情を寄せら  
れし各位に安説会一同  
は感謝してゐる。勘三人  
の所持金の中葬儀費用  
を控除せる額百四十八  
弗七十三仙は故人の靈  
廟に依り參拜等を在日本  
の子弟へ遺骨と共に運び  
渡すべく費用は多く

金儲か教育か？（一）

## 感謝と報告



金儲か教育か？



列子卷之三

最後の立場金を飾る  
金踊り

住民が公金堂に召集し  
二日共に心からの大法要  
を有した。

貴女平尾振り下踊るの  
のも豪爽ある風情を添  
え云者も元々舞らうれ

物形態に因する理由  
映画と見ゆる多數の出席者とをかと。

明和に施行する最後の  
立法要は數千の件数信  
者により土日・日曜・雨日

ない多歎の  
見物と前に  
老君男女入  
長き日の

は行く 德重

田芥子

アカソソシテイのホフソン氏所有千葉  
加の烟と云ふ此のセントラル  
タワーから、南に一直線約  
六哩の地点にあら先革  
の溝水内損害賠償の意  
味で同氏に政府より下  
附されたもの、今から五

儲け且つ郡の發展を  
んで居りぬであら。  
土質は意味のあら雄  
土であり肥沃であら深  
きは少すくとも三呂の  
らぬ吹石、工賀そのもの  
のものから云へば何の  
作物にしても出来事す

諒和に於ける嚴復の本  
意は數千の仲教信  
者により土胚日暉而目  
嚴修された。

ない多岐の  
見物と共に  
老若男女入  
乱れて二院  
と跡づけの  
たやつと笑  
けら程のかの兒が日暮  
着で手を振り足を振る

は 行く 德而  
育れて 植基を成す 来る  
く返し煙草の心ゆ化  
而して地の植

田芥子  
宝生金の  
供養

(4)

八百要加一面の音々とした本日と化してゐる。當時囚人と收容してゐた本道二階建の監獄は今は廻所のバーンの代理を務りて居る。此處にはノーマン語の傍き人の裏人五六軒が住んでゐるが、まだ空家も五六軒あり、不アソニ氏は此處に日本人が入り此處床や梯以上に利益の上も野菜園を耕作して却人も儲け、自身も

候と考慮に入れ見て見  
は多セントーの署圖  
試作済久の野菜類特に  
トメト胡瓜茄子等は  
は成功間違なしと思ひ  
れど傾向もあるが此の  
臭は考人の嗜好に觸  
ふ事として取て云々しかし  
いわ工質かヘタリなど不  
けに肥沃でちる事は確  
だと云々。一見して知  
年のセロリ名老地か  
べニ久の地と思は  
のである。(後)

午後二時よりは多雲の  
空 席喰 次時代  
坐冥と時代遅れと語  
釣つけた魂もあつた  
運転の時代もあつた  
超然と時代に拗ねて  
夢に浮く明日の時代  
新野伏見く犠牲の身  
席喰 次時代  
敵人の苦で立かつた  
仰に生までも苦で

東も若の便り 待つ間  
見直して見ても鏡に  
来る筈と待つた便り  
此處に東も若不<sup>可</sup>  
宿題 懸念「流石」  
貴銀は諸石名取と云  
水泳着住人心港の香  
聞鏡今流石に迷惑を  
血へ説名に強ひ百  
名壁の風に流石に恵  
旅船流石に東は行  
持つてゐらしの流

武陵遊録の謡曲全と開化  
の窓に寄り一碧  
書の想も明日となり  
つた開鎗令聞香  
文朗遣  
御山遣芭蕉  
部隊の松  
高さ  
の高

序 味 想「時代」  
空実と時代遅れと誤認され  
釘つけた歴史もあつたと宋ね婆  
軍船の時代もあつた日本史  
超然と時代に拘らず独創  
夢に浮く明日の時代へ生き延びる  
新時代早く犠牲の屍山

東も若の便り待つ間の窓に寄り  
見直して見ても鏡に写る柳  
東も若と待つた便りも明日となり  
此處に東も若不丁かつた開鎗令  
宿題題「流石」  
賞味は硫石名取と云ふ跡  
水泳着住人の港の香が残り  
開鎗令硫石に連ねて淡山  
血の鱗流石に強い百部隊  
史朗達  
碧喬宮宣水海澨  
南遠落  
南海

序章 情書  
敵人の苦で立かつた今日の悔  
仰に生きてから苦と恩痴並み  
五  
遠  
布史

名壁の風に流石に在め枝  
旅館流石にまは行き居き  
持つてゐらしの流石に寄附の高  
一 浦音